

就農事例紹介シート

広島県立吉田高等学校卒業 喜連川 駿さん(喜連川農園)



喜連川 駿 (21 歳) さんの紹介

喜連川さんは、広島県立吉田高等学校アグリビジネス科を卒業後、広島県立農業技術大学校園芸課程野菜・花きコースを経て、平成31年4月に実家である喜連川農園に就農しました。

現在は、水耕による青ネギ栽培に従事し、品質の維持・向上について研究しながら、生産に取り組んでいます。

○喜連川さんの就農までの道

農業高校
(吉田高等学校)

県立農業技術大学校
(野菜・花きコース)

就農
(喜連川農園)

農業高校に入学しようと思ったキッカケは？

実家が農業を営んでおり、幼い頃から農業に身近に接していました。そのため、自然と自分も農業に取り組みたいと思うようになり、地元で農業について学べる吉田高等学校アグリビジネス科で、農業に関する専門的な知識や技術を身に付けたいと考え、入学しました。

高校や大学校で学んだことは？

吉田高等学校では、農業の基礎的な知識と技術を確実に身に付けることで、基本につまづかないようになりました。

農業技術大学校では、より専門的なことを学ぶとともに、自らの目で作物をよく観察することで、何をすべきかを考えて行動する力を身に付けることができました。また、将来農業経営に生かせる資格を多く取得することができました。農業技術大学校時代は、寮生活ということもあり、高校時代より多くの人と深く関わるが増え、人とのつながりやコミュニケーション能力を身に付けることができました。

今の仕事の中でやりがいを感じることは？

播種から収穫までの年間作業をノートにまとめ、環境による生育時間の違いや過去の栽培との比較を行うことで、より良い栽培方法を探していくなど、いろいろと考えながら作業を行っています。

また、企業と違い自営であるため、作物や季節に応じた時間帯で作業を行うことができます。そのため、農業の暑い・寒いや作業が大変というイメージと違い、楽しく作業をすることができています。



喜連川農園は、安芸高田市にあるクリーンカルチャーグループの一つで平成25年に設立されました。現在は、従業員4人で主に青ネギの水耕栽培を行っており、最近では冬季の水耕レタスの栽培にも取り組んでいます。

近年は、水耕栽培が盛んになっており、喜連川農園も更に生産を拡大すべく、若い世代が中心になって、経営に取り組んでいます。